

第50回経営協議会議事録

1. 日 時 平成28年11月29日(火) 14時00分～15時40分
2. 場 所 ホテルクラウンパレス浜松 3階 松の間
3. 出席者 今野(議長)、伊藤、猿田、篠原、御室、門田、山本、金山、前田、晝馬、松山の各委員
陪 席 宮嶋副学長(教育改革担当)、浦野副学長(情報・広報担当)、蓑島副学長(研究担当)、西山監事、村本監事

4. 議事録の確認

第49回経営協議会議事録(案)を原案どおり確認した。

5. 議 事

議事に先立ち、篠原委員の紹介があり、挨拶があった。

また、議長から、平成28年度本学の経営状況等の説明があった。

(1) 浜松医科大学基金について

前田理事から、浜松医科大学基金について説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

(2) 平成28年度補正予算について

前田理事から、平成28年度補正予算(案)について、今年度事業の進捗状況を踏まえた補正予算による措置予定事項の説明があった。また、内部保有資金の執行予定について併せて説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

(3) 業務達成基準の適用について

前田理事から、業務達成基準の適用について説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

(4) 給与の改正について

人事課長から、「改正国家公務員給与法」の成立に伴い、本学の対応として、同法に準拠し人事院勧告分(平成28年度分)についての給与を改正することとしたいと、その改正内容及び影響額について説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

(5) 規則の改正について

① 病院諸料金規程の改正

総務課長から、病院諸料金規程の改正内容について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

(6) 報告事項

①平成 27 事業年度に係る業務の実績に関する評価結果について

金山理事から、平成 27 事業年度に係る業務の実績に関する評価結果について報告があり、本学を含めた 4 大学（旭川医科大学、滋賀医科大学、東京医科歯科大学）の評価結果について、説明があった。

②平成 27 事業年度財務諸表の承認及び第 2 期中期目標期間終了時における国立大学法人の積立金の処分に関する承認について

会計課長から、文部科学大臣より平成 27 事業年度財務諸表が承認された旨の通知があった旨報告があった。また、第 2 期中期目標期間終了時における国立大学法人の積立金の処分に係る申請が文部科学大臣に承認された旨併せて報告があった。

③基礎臨床研究棟改修等について

前田理事から、基礎臨床研究棟改修等について報告があった。

次回の経営協議会について（平成 29 年 1 月 24 日開催予定）

※学外委員からの主な意見（○：学外委員の意見等、◆本学側の意見・説明等）

議事（1）浜松医科大学基金について

- 大学の基金設立に携わった経験から、もう少し早い時期に設立すべきだったということもあると思う。
基金において重要なことは、寄附者への顕彰であり、リピーターを大事にすることである。大学の施設に銘板を設置するなど取り組みを行い、いかに一度基金に協力いただいた方に再度協力いただくかが重要である。
- ◆謝意表明については、銘板や感謝状の贈呈など、この後に開催する委員会にて審議を予定している。一方で、現在基金への協力依頼について関連機関に訪問する等協力依頼をしているところであるが、継続して協力いただくための知恵等がもしあればご教示いただきたい。
- 寄附者に対して基金をどのように活用したかという報告会を案内している。また、基金においては、統計をとった結果、リピーターが多いということもあり、重要視している。
- ◆基金活動については、いろいろと工夫しながら進めていきたいと考えている。毎年継続して行っていくのは非常に重要だと認識している。

議事（2）平成28年度補正予算について

- Da Vinci Xiについて、胃がん、前立腺がんで保険適用となっていると思うが、状況はどうか。
- ◆まだ損益については判断できる状況ではないが、件数については、順調に増加している。また、手術の手技もあがっている。
- 大学分と病院分で合わせて100百万円程度の節減費があるが、これはどのような取り組みを行っているのか。
- ◆当初予算からある程度残がでることを見込んで予算をたてているということもある。当初予算からの大きな費用減の大きな要因は光熱水量費の単価減であるが、それ以外にも、たとえば複数年契約の実施など、契約の見直し等も要因の1つである。

議事終了後

- 学生の教育で重要なことは、学長が自ら重要なメッセージを語りかけることではないか。また、それを繰り返し行っていくことが重要だと考える。
- ◆過去の他大学の案件でも、コミュニケーションが問題となっているケースが多い。本学では職員においてはコミュニケーションを円滑に行っていると思うが、学生だとなかなか難しい部分もある。
- 大学教育という観点だけではなく、人間教育が忘れられており、近視眼的な教育を行っている傾向にあると感じる。教育面でも、特に幼児教育や家庭教育が崩壊しつつあるという状況もあり、日本全体が非常に重要な局面を迎えているということを教育の場にいるものとして認識し、いろいろな対策をとる必要がある。
- ◆学生の教育面では、日本の文化や歴史などを理解したうえで、グローバル的な視点を持つ

ということが重要だと思う。学生のカリキュラムの変更により一般教養は1年間で行うこととなったが、その中でどのような教育を行っていくのか考えていく必要がある。

○医学生に関連する案件であるが、事件を起こしたらどのような結果になるのかといった想像力が欠如していると感じている。このような状況の中で、教育が果たすべき役割は非常に大きいと思う。

○道徳という教科について非常に重要だと思う。人間としてどのように生きるか、バランスの重要性、学問を修める前に人間としてどうすべきか。これが教育の基本だと思う。

◆現在大学入試についての改革が進められている。そのうち、入学試験で行われる面接が現在ややステレオタイプ化していることもあり、人柄等をより見ることができるよう面接を実施したいと考えている。

○面接に関連して、企業の採用においても、面接が非常に重要で、特に人間性を重視している。必ずしも頭が良ければいいということではない。

◆委員の皆様から頂いた意見を踏まえて、大学の方向性を考えていきたい。